



第15号

発行 平成20年5月27日

茨城県立図書館

ボランティア協議会広報委員会

文責 黒沢 英宣

## かがやき

### 目次

白坂道子さんと朗読を勉強する会  
「豊かな出会い、豊かな生き方」  
～ ボランティア研修会をふりかえって～  
図書修理ボランティア訪問  
子ども読書フェスティバルの一日(5月5日)  
ボランティアの声  
ボランティア協議会から皆様へ  
編集後記





## 白坂道子さんと朗読を勉強する会



4月26日午後1時半、東京・大井町からお出掛けくださった、白坂道子先生を囲んでの勉強会がはじまった。集まったボランティアは児童サービス、代読サービス・対面朗読、資料配架などのグループだった。数十年以上前、NHKラジオで絶えず耳にした白坂さんの名朗読を耳の底に残しておられた方が多かったようだ。女性44名男



性4名で三階会議室はほぼ満席となった。

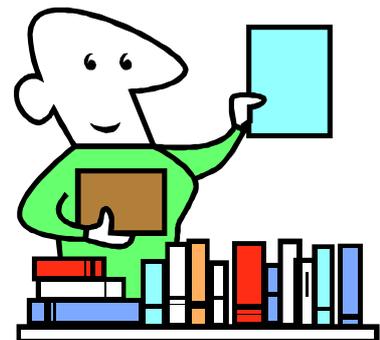
まず、「平家物語の出だし数行」を我こそと希望した方がそれぞれ、朗読した。その評価指導はまことに効果的で、さすが蓄積された、高度の知識、見識による朗読者個人への適切なアドバイスだった。続いて芥川龍之介の「蜘蛛の糸」の朗読では文章をよーく読み込んで、文章に添って流れを考えて読むことの指摘が重ねられた。この文章を読まれた方はさぞ勉強になられたのではないだろうか。次の、「源氏物語」は4名の

方がかなり苦労して朗読され、ご指摘を受けて、できたら源氏物語の原文に取り掛かったほうが、深い理解を得て、本当の勉強になるとアドバイスをいただいた。「藤沢周平の文章」は現代文ではあるものの、取り付きにくさもあり、朗読者は厳しい指摘、指導を受けた。

今回の研修会のテキストは、児童サービスにとっては普段用いる絵本児童本とはかけ離れてはいたが、書物に取り組み、作者の心を伝えるという基本的態度を維持しつつ、聴衆の気持ちを捉え、その心に通じる朗読をする基本について厳しくご指摘を受けた。参加者はそれぞれかなりの感銘を受けることができ、真摯にご指導なされた先生に深く感謝申し上げたい。

なお、その後多くの方々から、白坂先生のご指導を再度受けたいとの声をいただいた。先生には早速、皆さんの感想や感謝の声とともに、近い将来またお出掛けいただきたいと書状によりお願い申し上げた。

〔児童サービス 上條 哲〕





## 豊かな出会い、豊かな生き方



### ボランティア研修会をふりかえって

2月24日、のびる学園園長渋谷照夫氏を迎え、私たちのボランティア研修会が開催されました。演題は「豊かな出会い、豊かな生き方」、参加者は42名でした。渋谷氏は、茨城放送コメンテーター兼番組審議会委員や茨城大学講師をされる傍ら「茨城ひと塾」を主宰し、多くの人々に社会問題、健康問題、異文化との交流等多岐にわたる学習会を開催し、幅広く生涯学習社会の構築のためご活躍なされている方です。

研修会は先生のお人柄が滲み出るような和やかな雰囲気です。

先生は講話の中で、「人生とは何か」を200人の大学生（新入生）に聞いてみたと言われました。その結果、人生とは、楽しみ（19%）、愛（15%）、夢（11%）、苦しみ（10%）、戦い（9.8%）等々の答えが返ってきたそうです。

また、徳川家康は「人生は苦しみと戦いである」、釈迦は「人生とは楽しむために生きることだ」と言ったことなどが紹介されました。

そして、先生はご自身の人生で大きな影響を受けた二人の人物、一人は、画家岡本太郎、もう一人は、日本で初めて生涯学習の学校「波多野フリ・スクール」を設立し、先生自身も、大学卒業後その施設で薫陶を受けた波多野完治とのそれぞれの出会いに

ついて語られました。このような体験から先生は、「楽しまなければ人生じゃない。物事には、ムキにならないよう、生きることが肝要だ」という人生観を得たとのことでした。

最後に、「豊かな生き方を目指すためには、豊かな出会いが何より大切であります」と話され、講話の結びとされました。

思うに、私たちは日々出会いを求めて生きているとも言えます。ボランティア活動をしようとみずから選択した私たちは、ボランティアとしての活動の実践を通して少なからず出会いのチャンスに恵まれているとは言えないでしょうか。

日々の活動からは無論のこと、私たちが相互啓発の場として参加できる研修会や見学会から、そしてこのボランティア広報紙「かがやき」の紙面を通して、あなたの人生にとって思いもかけぬ素敵な出会いを得ることができるかもしれません。

「自分だけ」という殻の中だけで活動するのではなく、出会いのチャンスを生かすことによって、より一層豊かな生き方が実現できるよう「これからも、出会いを大切にしながらボランティア活動を楽しみたい」と改めて思うことができた研修会でした。

〔広報 黒沢 英宣〕



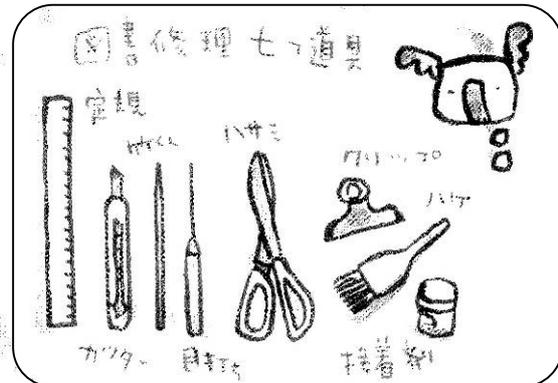
## ボランティア訪問



\*\*\* 図書修理ボランティア \*\*\*

金曜日のボランティア室は作業所になります。  
 図書修理の皆さんの本の修復所になるので  
 す。その熟練の技は、昨年、福音館書店月刊「かがくの友」からの取材をうけるなど、  
 折り紙付きといっても良いでしょう。取れてしまったページを元の位置に挿入する  
 「のりいれ」の習得には3年程かかるそうです。糸切れの糸に、麻糸を使う所もあるよ  
 うですが、わが図書館ボランティアは、試  
 行錯誤の末に刺繍糸二本取りにたどりつ  
 いたということでした。企業秘密の技術を駆  
 使しても修理に1~2月かかる本もあると  
 いうのに、修理した本は、年間3000冊に  
 もなるそうです。修理したとはわからない

ぐらい元の形にするのが目標とのこと  
 ですが、ベテランボランティアの方の最終  
 チェックを得るのがとても厳しいと、おっ  
 しゃっていたのが印象にのこります。細  
 かい根気のいる手仕事を、楽しそうに  
 作業していました。本当に皆さん本が  
 大好きなのでしょう。お忙しい中、つ  
 たない質問にに応じていただきありが  
 とうございました。



「かがくの友9月号」折り込みふるくより



修理の様子 撮影 土屋

セロハンテープでの自己流補修はしな  
 いようにしましょう。  
 作業台の都合で新規のボランティアの  
 募集はしていません。

〔広報 土屋 純子〕



## 子ども読書フェスティバルの一日



~~ 5月5日 ~~

前日までの天気情報では、午前中は晴天  
 の予想だったが、あいにく小雨交じりの曇  
 りの状況で子どもの日の催事は幕開けとな  
 った。AM9時には80歳の長老加藤（児童

サービス・代読）さん、福田（特技）さん  
 も玄関前にきておられ、以下受付担当の佐  
 藤（児童サービス）さんも配置についてお  
 られた。長老から女性陣、若手の働き手仲

村（児童サービス）君までが勢ぞろいの力強いボランティア一同のそろい踏みで、今日のイベントは始まった。

A M10時、コーヒーテントの前で、早くもコーヒーマスターの黒沢（広報・イベント）さんが「挽きたてコーヒーが、お出でをお待ちしています」とスピーカーで第一声を元気に流した。フリーマーケットには既にかなりの客がたむろしていたし、図書館館内へ入る人々もかなり早い出足のように見受けられた。

A M11時視聴覚ホールで、有名な中澤敏子先生指揮による野ばら会の女声合唱、伴奏の小沼さんのピアノタッチも素晴らしい演奏会が始まった。しかし聴衆の数は少ないスタートだった。美しいドレスの独唱者が交互に上手に童謡を歌い、しばし童心に返ることを得たひと時だった。後半15分間は「アンサンブル童」の幼子から高校生までの元気なグループが盛り上げてくれて、満席にちかくなった会場は盛況に終演となった。



A M11:30 から児童サービスの出番となった。水曜班・第2・4土曜班の出演、30分の持ち時間をフルに活用しての演技だった。続いて正午からの出番は第2・4日曜班、先ず、手品からはじめ、紙芝居、飛び入りのマジシャンの出演、と1時間半の持ち時間中、聴衆の数をかぞえてみたら、子ども14人おとな18人と予想外の状況に、驚きながら、ハッスルし、男子小学生の数が多かったので、最後は落語一席を演じ、締めくくった。次は第1・3土曜班の担当P M1:30か

ら30分の熱心な演技、これが終わると第2・4日曜班の2回目の出番、2時からの1時間をマジック、紙芝居、エプロンシアターでこなし、P M3時からの第1・3日曜班、金曜班に引き継いだ。このグループはカー

テンシアターなど高度の準備された演技などで、最後の30分を有効に活用し、子ども祭りの中核的演技の連続を締めくくった。日頃の活動状況よりは聴衆も多く、かなりの出入りもあ

ったし、親たちの傍聴者もかなりの数だったので、出演された方々はかなりのお疲れだったと想像できる。ご苦労様でした。

他方、三階大会議室では茨城大落語研究会の尽力で、「子ども落語体験」のイベント開催があり、ほぼ満席の状況、学生たちが着慣れない和服姿ながら、高座での熱心な演技に大きな声援が続いた。あらかじめ児童生徒数人に小話などを教育しておいて、高座にあげ演技させる企画を含め2時間程度のたっぷりした落語会を次回には望みたいものだ。

喫茶コーナーは予定時間前に在庫商品売り切れとなり、大成功のご商売のようだった。仲田（広報・児童サービス）さんは腰の抜けるほどくたびれたが、面白かったとの感想で、次に児童サービスで一席努めませんかと声を掛けたら、勘弁してと帰宅なされた次第。

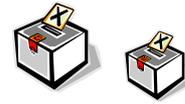
三の丸広場にテント張をして、人形劇、読み聞かせ、などのグループ活動を見たが、次回からは児童サービス委員会と事前打ち合わせを行って、協調して活動するようにはからいたい。

〔広報・児童サービス 上條 哲〕





## ボランティアの声



～ 人生を楽しく ～

仲田 昭子

児童ボランティアと広報のお手伝いをさせて頂いております。

「読み聞かせ」や「お話」を始めると子どもたちは耳をすまし、真剣な表情で熱心に聞いています。「とてもよかった」「とてもおもしろかった」と喜んでもらえ、私に

とっても充実した時間になるよう朗読の研修等にも参加し勉強したいと思います。

ボランティアの会に入りたくさんの人と出会いがあって楽しい時間を過ごしています。お誘いくださった先輩に感謝いたします。

## ボランティア協議会から皆様へ

「ボランティア全体会」が開かれます  
ご出席をお願いします!

日 時 平成 20 年 5 月 30 日 (金)

場 所 県立図書館 3 階会議室

**ボランティア見学会のお知らせ**

日 時 平成 20 年 6 月 11 日 (水)

集 合 午前 8:20 三の丸庁舎駐車場

行 先 つくば市立中央図書館

広報紙「かがやき」や「連絡文書」  
をボランティア室の各個人の「ラック」  
から必ずお取ください。

コ・ヒ・ショップの運営結果の報告

5 / 5 子ども読書フェスティバルへ出店

協力ボランティア 6 名

営業品目

ホットコ・ヒ - (100 円)

アイスコ・ヒ - (100 円)

オレンジジュース (50 円)

売上げ合計額 14,850 円

収益金 7,886 円

(ボランティア協議会口座に預金)

## 編集後記

地域のお友達と講師を招いて朗読の勉強をしている。身のほど知らずにも「藤沢周平に挑戦！」と、短い短い 10 ページ足らずの作品に挑んだ。

10 ページの中には主人公の生きてきた様子やこれからがしっかり詰まっっていて、改めて感嘆。そして江戸の情緒もしっとり感も全くない自分の声に、がっかり。そんなものとは無縁のドタバタした毎日を省みた。

そんな春、きれいに咲く桜の花を眺め、江戸人はどんな風にこの桜を見るのだろうかとほんのり思いを馳せてみたりして…。

たまに声に出して読んでみるのも、お勧め！！



〔小田部 和子〕